テ病院、病舍又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

保險者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者第一項各號ノ一ニ該當スル場合ト雖モ第一條第二項ノ補給金ヲ支給スルコトヲ妨ゲズ

第六十三條　保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十九條ノ二　第六十條、第六十二條第一項及第二項、第六十五條並ニ第六十七條ノ規定ハ世帶員ニ之ヲ準用ス

第五十五條ノ規定ハ第一條第二項ノ補給金ニ之ヲ準用ス

第七十條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條　被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十四條第一項

被保險者ノ負擔スベキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條　被保險者第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

第八十七條　正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條第一項

健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ゲタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

昭和十六年三月十一日公布　法律第六十號勞働者年金保險法抄錄

第十六條　健康保險法第十三條ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル勞働者ハ勞働者年金保險ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　常時十人未滿ノ勞働者ヲ使用スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者

二　勅令ヲ以テ指定スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者

三　女子

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル勞働者ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ノ認可ヲ受ケ勞働者年金保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得

一　前條第一號、第二號又ハ第三號ノ規定ニ該當スル者

二　健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業ニ使用セラルル者

三　前二號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ニ使用セラルル者

四　前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業及前二號ノ事業ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者

第十八條　第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ際同條ノ規定ニ依ル被保險者トシテ其ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ前條ノ認可アリタルモノト看做ス

三　前條第一項第二號、第三號又ハ第四號ノ事業ト爲ルニ至リタルトキ

第二十四條第三項

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ左ニ掲グル期間ハ之ヲ合算セズ

二　命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ被保險者トシテ引續キ使用セラレタル實期間六月未滿ナルトキハ其ノ期間

所得稅法中改正法律の公布

第七十九回帝國議會の協贊を經たる所得稅法中改正法律は昭和十七年二月二十三日付官報を以て公布、昭和十七年四月一日より施行さるることとなつたが、既に前號本欄所報の如く本改正は一般的增稅を斷行せる反面、稅制度に於ける人口政策的考慮は扶養家族に對する控除規定に關し一層の擴充强化を示すに到つた。改正法律中特に扶養家族控除及び生命保險加入に

よる控除に關係ある條章を抄錄すれば次の如くである。

所得稅法中改正法律

（昭和十七年二月二十一日法律第四十七號）

所得稅法中左ノ通改正ス

第二十四條中「百五十圓」ヲ「二百圓」ニ、「百分ノ八」ヲ「百分ノ十二（扶養家族中子五人以上ナルトキハ百分ノ十八）」ニ改メ同條第六項ヲ削ル

第二十五條中「百五十圓」ヲ「二百圓」ニ、「百分ノ八」ヲ「百分ノ十二（扶養家族中子五人以上ナルトキハ百分ノ十八）」ニ改メ同條第六項ヲ削ル

第二十六條ノ二中「二百圓」ヲ「二百四十圓」ニ、「百分ノ六」ヲ「百分ノ十」ニ改ム

附　則

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十五年三月二十九日公布法律第二十四號所得稅法抄錄

第二十四條第一項、第四項及第六項

甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年一月一日現在ノ扶養家族一人ニ付年百五十圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額ノ百分ノ八ニ相當スル金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

第一項ノ扶養家族ガ前年中ニ甲種ノ勤勞所得ヲ有シ又ハ其ノ年分ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得若ハ山林ノ所得ヲ有スル場合ニ於テ第十六條第一項、第十七條、第十八條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ此等ノ所得ヨリ控除スル金額ガ總額ニ於テ百五十圓ヲ超ユルトキハ其ノ扶養家族ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

甲種ノ勤勞所得ヲ有スル者綜合所得稅ノ賦課ヲ受クル者ナルトキハ賦課ヲ受クル年ノ七月一日ヨリ、翌年六月三十日迄ニ受クル給與ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第二十五條第一項及第六項

不動產所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得又ハ山林ノ所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年一月一日現在ノ扶養家族一人ニ付百五十圓ノ百分ノ八ニ相當スル金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

第一項ノ所得ヲ有スル者綜合所得稅ノ賦課ヲ受クル者ナルトキハ同項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第二十六條ノ二　自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險料中年額二百圓以內ニ於テ命令ヲ以テ定ムル金額ノ百分ノ六ニ相當スル金額ヲ不動產所得、事業所得、勤勞所得又ハ山林ノ所得ニ對スル分類所得稅額ヨリ控除ス

即ち右改正により勤勞所得者に對する扶養家族控除は扶養家族一人に付從來の月一圓（年十二圓）を月二圓（年二十四圓）となせるのみならず、特に子五人以上を扶養する者に對しては一人に付月三圓（年三十六圓）の控除を行ふこととなつた。また綜合所得稅の賦課は本改正により從來の年所得五千圓以上の規定を三千圓に引き下げられたが、之と共に綜合所得稅を收むる者に對しても扶養家族控除が行はるることとなつた。

尙、本改正前後に於ける勤勞所得の負擔稅額の一覽表を示せば次の如くである。

改正前後に於ける勤勞所得の負擔額調（細字改正前　太字改正後）　單位円、一ヶ年分

所得金額	獨身者	妻のみ	妻及び子一人	妻及び子二人	妻及び子三人	妻及び子四人	妻及び子五人	妻及び子六人	妻及び子七人
六五〇	五〇	—	—	—	—	—	—	—	—
八〇〇	四八 二〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	—
一、〇〇〇	一六・八 四〇・〇	四八 一六・〇	—	—	—	—	—	—	—
一、五〇〇	四六・八 九〇・〇	三四・八 六六・〇	—	—	—	—	—	—	—
二、〇〇〇	七六・八 一四〇・〇	六四・八 一一六・〇	—	—	—	—	—	—	—
二、五〇〇	一〇六・八 一九〇・〇	九四・八 一六六・〇	—	—	—	—	—	—	—
三、〇〇〇	一三六・八 二四〇・〇	一二四・八 二一六・〇	—	—	—	—	—	—	—
四、〇〇〇	一九六・八 五七六・〇	一八四・八 五五二・〇	二二・八 四二・〇	一〇・八 一八・〇	—	—	—	—	—
			五二・八 九二・〇	四〇・八 六八・〇	二八・八 四四・〇	一六・八 二〇・〇	四・八	—	—
			八二・八 一四二・〇	七〇・八 一八〇・〇	五八・八 九四・〇	四六・八 七〇・〇	三四・八	二二・八	一〇・八
			一一二・八 一九二・〇	一〇〇・八 一六八・〇	八八・八 一四四・〇	七六・八 一二〇・〇	六四・八 一〇四・〇	五二・八	四〇・八
			一七二・八 五五二・〇	一六〇・八 五〇四・〇	一四八・八 四八〇・〇	一三六・八 四五六・〇	一二四・八 一四〇・〇	一一二・八	一〇〇・八 八八・〇

| | | |